

平成 28 年度 学校評議員会 議事録（要約）

1. 開催日時・場所

第 1 回 平成 28 年 6 月 26 日 15:10~16:40 水沢高等学校 会議室

2 学校評議員に意見を求めた事項

- ア 伝統校としての活気ある活動
- イ SSHの継続と進化
- ウ 進学校としての実績の確立
- エ 各学年の特徴と対応策
- オ 地域との関わり

3 学校評議員の意見

アに関して

- ・ 応援歌練習の実態、実施形態について
- ・ 生徒の積極性の養成について
- ・ 地元へのUターン就職の可能性について
- ・ 校内行事のPR活動について

イに関して

- ・ 「視野の広さ」を養う企画の可能性について
- ・ 「国語分野の研究活動」の実現可能性について
- ・ 継続申請の進捗状況について

ウに関して

- ・ 今年度の受験生の動向について
- ・ 最難関大学に対する受験生動向について
- ・ 有名講師招聘の可能性について

エに関して

- ・ 今年度の新入生の学力・気質について

オに関して

- ・ 町内会活動への参加実態について
- ・ 朝夕の送迎ラッシュの解消について

4 学校運営に反映した事項

(1) 反映した事項

- 3-ア ⇒ 新入生のがんばりもあり、応援活動は順調に推移している。今後とも自主的な応援団活動を期待したい。
- ⇒ 他校と比較して、生徒の積極性は十分に引き出されていると評価している。特に行事等では企画力・自主性・行動力が十分に発揮されている。
- ⇒ 生徒の地元に対する愛着意識は強い。大学で学んだ専門性を活かせる企業誘致が進めばUターン率は上昇すると思われる。
- ⇒ 運動会・文化祭等では近隣住民に新聞チラシを配布しており、大変好評である。今後も継続していきたい。

- 3-イ ⇒ 質の高い研究が求められるため、2・3年の課題研究では掘り下げ型の研究にせざるを得ない。しかし1年の学校設定科目では「視野の広さ」に重点をおいた科目を設定している。
- ⇒ 現段階ではSGHとの差を明確化するために国語分野を課題研究に取り入れることは困難である。次期申請では文系も課題研究を実施する予定なので、どの程度取り入れることができるか可能性を模索していきたい。
- ⇒ 次期申請に向けて、プロジェクトチームを組んでおり、従来のSSH運営とは独立した活動を行っている。
- 3-ウ ⇒ 今年度の受験生動向に大きな変化は見られない。依然として国公立優先、現役志向が強い。
- ⇒ 最難関大学を志望する生徒は例年より多い。校内での切磋琢磨が生まれることを期待したい。
- ⇒ 外部講師を授業の中で直接招聘することは困難である。SSH等の事業の中で招聘することは可能であり、他校よりは招聘の機会も多い。
- 3-エ ⇒ 新入生は例年以上の学力を有していると思われる。問題になるのは入学したときの学力ではなく、入学後の伸張度と考えている。意識も高い学年なので、今後期待したい。
- 3-オ ⇒ 高校が地域活動に制限をかけている例はない。多くの場合は、土日の部活動との重複が原因と思われる。1ヶ月程度前に予告していただければ、ある程度調整が可能と思われる。
- ⇒ 渋滞解消のために、校地内を突き抜ける道路（校地内一方通行）の可能性を昨年度から検討しているが、実現するためには多くの問題が存在する。近隣の大規模商業施設を乗降場所に指定する方法も検討中であるが、保護者の理解を得ることが難しい。